

# エリアマネジメント法人の 設立について

長門湯本温泉

## エリアの未来にコミットする株式会社

# 「長門湯本温泉まち株式会社」の設立

### 会社の概要

株主	湯本温泉旅館協同組合、長門湯守株式会社、長門湯本オソト活用協議会
取締役	伊藤就一、大谷和弘、白石慎一、三保裕司、山村英慈
代表取締役	伊藤就一
出資財産額	40万円
設立	2020年3月2日

### 設立趣意書（抜粋）

2016年に長門湯本温泉観光まちづくり計画が策定されて以来、私たちはその場所に生きる者として未来を創る役割を担うために、人々が憩い萩焼深川窯の素晴らしさに触れる場所としてcafe&pottery音の立ち上げ、音信川に沿って豊かに広がる公共空間を楽しむための長門湯本オソト活用協議会の設立、長門湯本温泉のシンボル恩湯の再建と、出来る限りのことをやってきました。

その過程の中で、住民の皆さんや旅館をはじめとする事業者の方々にも、深い理解と多大なご協力をいただいています。

観光まちづくり計画で実現した温泉街再生のハード整備がいよいよ完成を迎えようとしている中で、運用と持続的な発展を担う組織が標榜されます。**今までの業種限定や地域相互扶助の組織から、地域内外、世界を見据えてエリア価値を高めるビジネスに主体的に取り組む事業体と未来を作っていく**ことを望みます。

観光という行為が時代とともに**「消費から共感」**へ変わる中で、持続可能な固有のエリアが生み出す価値観に共感する地域内外の主体とともに、さらなる価値を高める以下の活動が求められています。

・・・（以下、略）・・・

契約期間：

2020年4月1日から 概ね5年間

勤務形態：

半常駐

長門湯本温泉  
まち株式会社  
エリアマネージャー



勤務地 長門市長門湯本温泉

(事務所所在地：

山口県長門市深川湯本1260-1)



## (自己紹介)

木村 <sup>よしと</sup> 隼斗

2007年

経済産業省入省

主な業務)

- 原子力被災者支援
- 自動車産業・取引適正化
- 3Dプリンタ
- 情報政策（5G・サイバーセキュリティ）

2015年

地方創生人材支援制度により長門市へ

- ・ 2015～16年 経済観光部理事
- ・ 2017年～ 経済観光部長

主な業務)

- まちひとしごと総合戦略の企画立案
- 地域商社（ながと物産合同会社）立上げ
- 林業振興（長門おもちゃ美術館）
- 地元高校生の仕事支援（NPO法人つなぐ）
- 長門湯本温泉観光まちづくり事業

2019年12月 経済産業省を退職



# プロジェクトとの関わり

## プロジェクトの展開

## 役割

### ◆ マイナスからゼロへ

老舗旅館の解体投資  
星野リゾートの誘致

### ◆ 施設・敷地からエリアへ

投資主体によるマスタープラン  
温泉街としての目標設定

### ◆ ビジョンからアクションへ

### ◆ マスタープランからハートビートプランへ

Thanks ONTO（恩湯に感謝を込めて未来へ）  
社会実験の繰り返しによる各論調整  
事業と主体の創造

### ◆ 受動から内発・巻き込みへ

cafe&pottery 音  
恩湯再建事業  
エリアマネジメント法人設立

2015年4月～  
長門市 経済観光部

2017年4月～  
デザイン会議・  
推進会議事務局

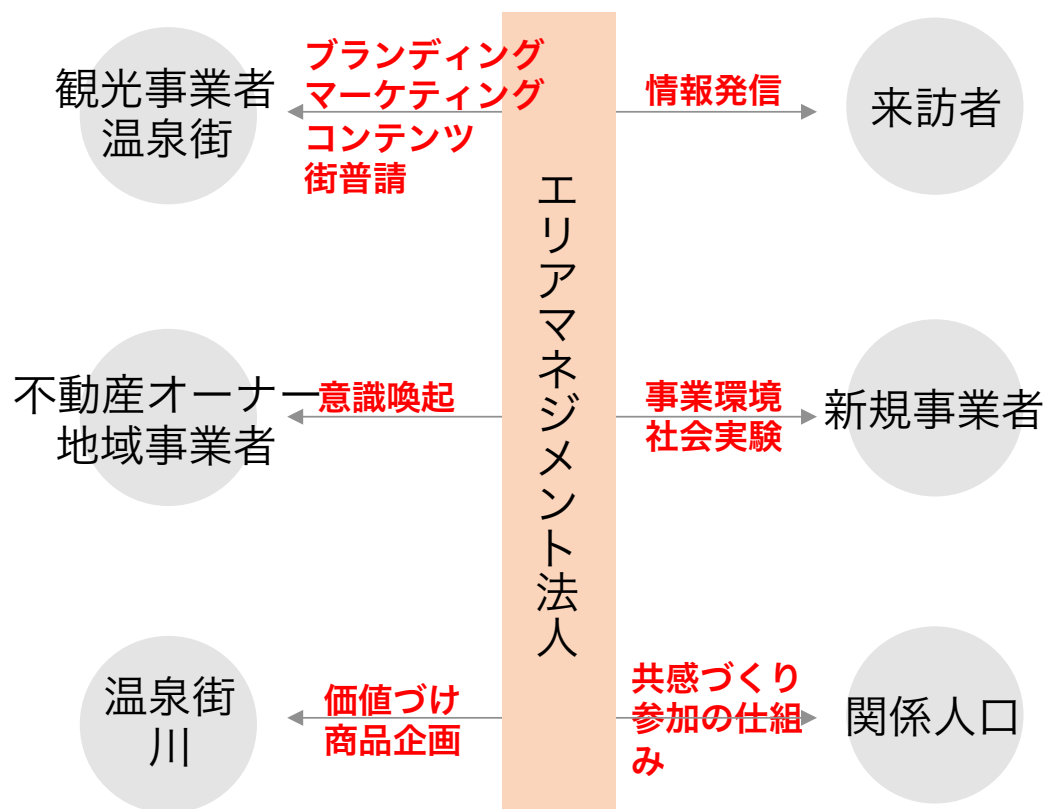
2018年4月～  
推進会議委員

# エリアマネジメント法人の4つの機能

## 持続的な観光まちづくりを進めるため、4つの機能を担います

※観光客からいただく財源で観光客の満足度を上げる事業に投資（≠地域行事）

※最初は優先度を決めて効果の出る事業に絞り込む、拡げすぎない



**DM 機能** (デスティネーションマネジメント) (観光資源創造・活用)

- ・ エリアマーケティング
- ・ 対観光客情報発信
- ・ コンテンツ企画

## ローカル ディベロッパー機能

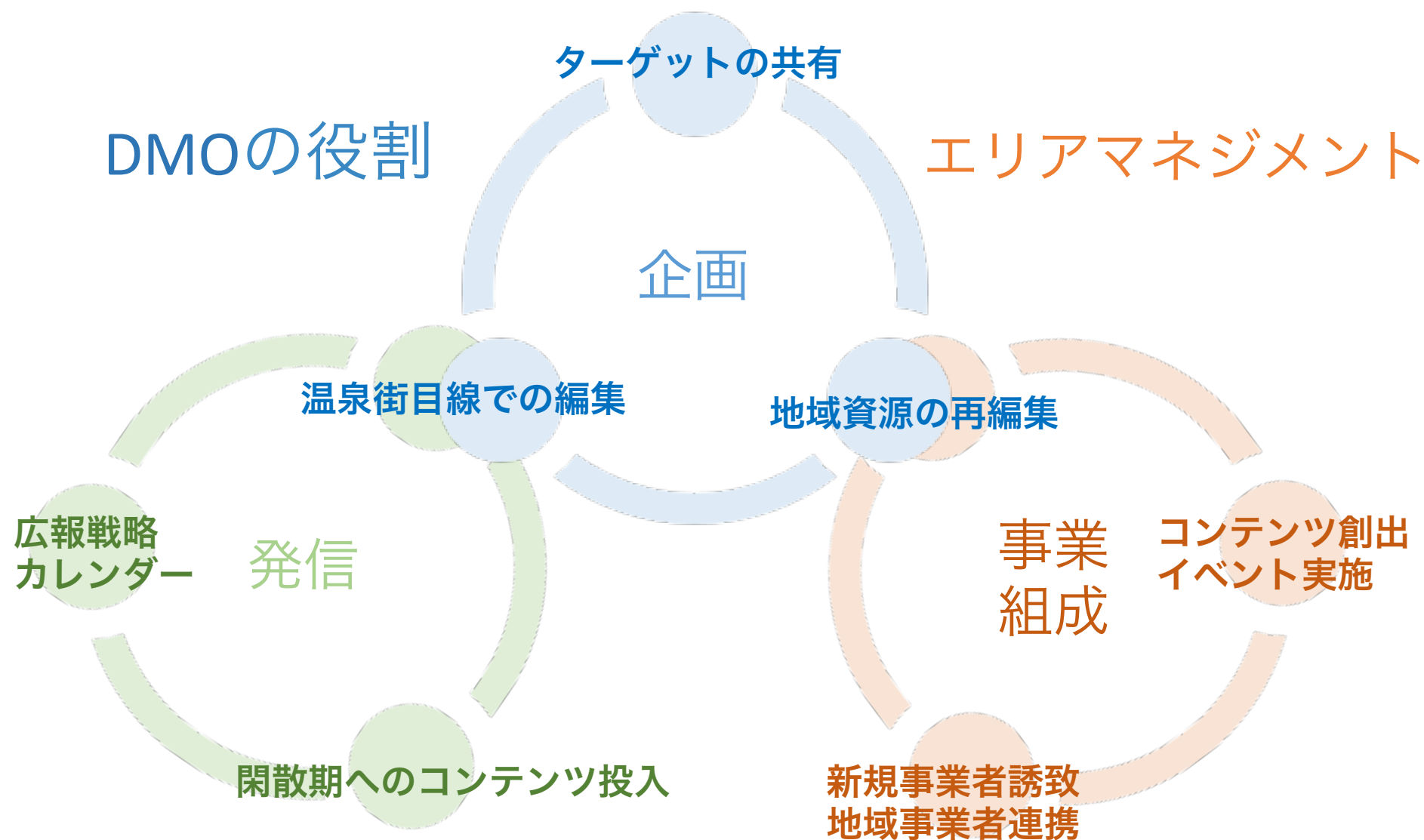
- ・ 不動産事業（空家活用・公共空間マネジメント・景観）
- ・ 事業者誘致事業
- ・ 駐車場事業

## 地域深耕機能

- ・ 地域事業者支援事業
- ・ ちょいバイトちょい飲み
- ・ 地域課題解決（旅館を核にした働き方改革など）

## 環境維持機能

- ・ 街普請事業（清掃・植栽管理等）



# 温泉街の番頭

# 長門湯本温泉街で実現したい価値

## 実現したいエリア価値

- 地域「固有の価値」が存続し、現代社会の中で「機能」する
  - × 文化「継承」を繰り返すものの徐々に衰退する「現状維持」を脱却しない
- 伝えたい価値を体現する「人」と「事業」が存在する
  - × 観光地として過度にニーズに応え、事業者自身で価値を「消費」してしまう
- 居住者、共感者など場と関係を有する人が自ら場を楽しみ、オープンである
  - × 観光客・観光事業と地元の乖離

## 長門湯本温泉にすでにある価値の源

川

清流と川床  
・暮らしの場  
・遊びの場  
・休みの場

窯

世界に誇れるアート  
・文化  
・張り詰めた空気  
・本物への入口

湯

大寧寺由来の出湯  
・自然湧出  
・温泉文化  
・湯あがりの時間

田舎

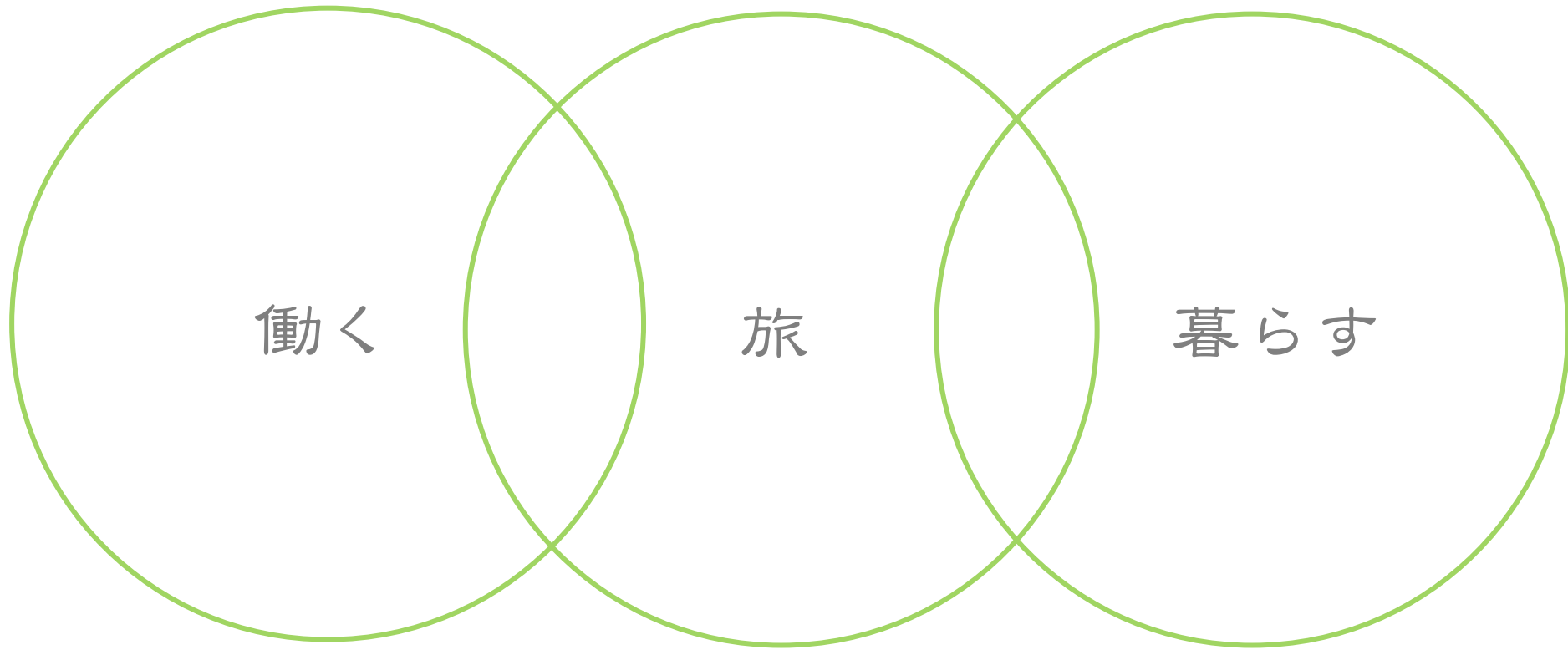
のどかな谷あい  
・穏やかさ  
・過ごしやすさ  
・なつかしさ

灯

照明演出  
・夜間景観  
・提灯による参加  
・自然（星・蛍）

# 長門湯本温泉街で実現したい価値

観光を消費から共感へ  
これからの旅と暮らしを長門湯本から



長門湯本温泉街

=働くこと、暮らすこと、旅することが緩やかにつながる共有の空間と体験の連鎖